

## 生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画改定懇話会（第1回）会議録

【日 時】 令和7年7月7日（月）午後1時30分～午後3時15分

【場 所】 エコパーク21 研修室

【参加者】 花嶋 温子座長、河瀬 玲奈、藤堂 宏子、上武 敏一、藤尾 庸子、  
樽井 雅美、清水 綾、瀬戸 清己、高橋 雄一郎、市坪 敦子

【欠 席】 吉田 万依

【事務局】 川島地域活力創生部長、谷次長、河島環境保全課長、紀之國課長補佐、  
木戸課長補佐、柳田係長、久保係員  
地域計画建築研究所 齋藤、佐土井

### 【議事内容】

#### 1) 開会

#### 2) 座長の選出について

- ・互選により座長に花嶋氏を選出
- ・座長挨拶

#### 3) 議題

##### (1) 現行の一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の進捗状況等について

- ・事務局説明（資料3）
- ・意見交換

○R5実績での目標達成状況について、事業系ごみ排出量は達成している。新型コロナウイルス感染症流行による事業活動の低下がきっかけとあるが、市内事業者の廃業等、経済活動の状況と事業系ごみ排出量の関連を把握されているか。

→現時点では事業所の廃業状況等は整理できてない。今後整理してみる。

○新型コロナウイルス感染症流行の家庭系ごみへの影響について、事業系とは逆に、在宅勤務によって家庭で過ごす時間が増加し、減量が鈍ったということはないか。

→見やすい資料を本日は用意できてないが、そのような傾向を示している可能性があると思う。今後調査し整理する。

○資料3の中で他都市との比較に関する記載あるが、京都市・大阪市が生駒市よりも1人1日当たりのごみ量が少ないとある。大都市が生駒市以上にごみ減量が進んでいるようには思えないが、そのあたりはどうか。

→両都市ともごみの減量化にかなり取り組んでおり、実際に1人1日当たりのごみ量も少ない。製品プラの分別も実施し、啓発も進めているという認識である。

○フリマアプリ講座や断捨離講座について報告があったが、実際に参加者のごみ減量

につながったなど成果を把握しているか。

→フリマアプリ講座については、1回のみで開催で成果の把握には至っていない。断捨離講座は企画したが都合が合わず開催できなかった。

○スーパーで総菜を購入するとトレイなどの容器包装がたくさん出てくる。プラスチック容器包装について課題として挙がっているが、取り組みに関連するものがないように見える。このあたりはどのような状況か。

→例えば量り売りの推進という案が考えられるが、その場合衛生の問題等の困難が想定される。このような問題への対応も含めて施策として検討していきたい。その他の施策の案があればぜひ案を出していただければと思う。

○私が利用する食品スーパーでは、トレイではなくポリ袋で精肉販売をしているがポリ袋の方が割高なことがある。現状では簡易包装や量り売りの利用に値段等のハードルがあるが、より身近な選択肢になればよいと思う。

○家族構成によって1人あたりのごみ量に違いがあるか。

→例えば高齢者夫婦世帯であれば、7リットル袋しか使わないという話を聞く。子育て世代はものが不要になるサイクルが早く、ごみが多くなりやすいという話を聞く。

○今の話に関連して、家族構成はかなり影響があると思う。京都市や大阪市で生駒市より家庭系燃やすごみの量が少ない理由のひとつとして、京都市や大阪市では学生単身が多い、生駒市では高齢化が進んでいるというような家族構成の傾向の違いも影響しているのではないか。

また、家を引き払う際にごみが多量に出ることへの対策なども考えていく必要があるのではないか。

## (2) 基礎調査内容について（市民・事業者アンケート、市民ワークショップ等）

・事務局説明（資料4、4-1、4-2、5）

・意見交換

○ワークショップは若い世代が参加したくなるようなチラシにしてほしい。LINEなどでの啓発、生駒市で採用している地域通貨アプリである「まちのコイン」の活用などもお願いしたい。

○市民アンケートで、新型コロナ感染症流行前後を比較する項目の意義がわからない。また市民ワークショップでは、参加された方の意識は上がると思うが、全体へのインパクトは小さいのではないか。広く小学校などで行うなども検討してはどうか。

→新型コロナ感染症流行の後も在宅勤務を継続している人が多ければ家庭で過ごす時間も増えていることが考えられ、それによる家庭ごみの増加分を反映したごみ量等目標値や施策の検討が必要になる可能性がある。そのため、市民アンケート問11を設定している。施策の具体的な内容については今後検討していく。

○排出量全体の数字のみで内訳がわからないとごみの種類ごとの変化がわからない。内訳がわかれば、ごみ減量のターゲットを定めやすいのではないか。

→本日は具体的に詳細な資料はないが、一番多いのはやはり燃えるごみである。毎年実施しているごみ組成調査では、燃えるごみ中にリユース可能物や資源化可能物が排出されていることがわかっている。これらは市民の取組の広がりによって減量や分別による資源化が可能な部分で、例えばこれらをターゲットとして施策の中でどのように取り組むか、次回懇話会で検討頂きたい。

○資源物の分別排出がより徹底されたとして、家庭系ごみの総量は減るのか。また、総量しか見えないのであれば、分別徹底の成果がわかりにくく、取組のポイントがぼやけると思う。

→細かい内訳のデータは用意できていないが、家庭系ごみの総量も減ってはいる。リユースやリデュースを頑張ることでごみ全体が減少する。

### (3) 計画改定の骨子について

- ・事務局説明（資料 6、追加資料）
- ・意見交換

○フードドライブを実施する際、生駒市は南北に細長く、市民が食品を持ち込む手間が大きくなりやすい。まちのえきで常に集められるようになれば市民にとって持ち込みやすくなり食品ごみを減らせるのではないかと。わざわざフードドライブに食品を持ってきてくれるような気持ちを持つ人をどう広げていくのが課題。イベントでのフードドライブに持ち込むよりもまちのえきの方が持ち込みやすいと感じている。

→気持ちを広げることも大事にしつつ、フードドライブを拡大していきたい。

○高齢になると徐々に分別が難しくなる方もいる。まごころ収集の際、分別などについて何か案内をしているか、あるいは分別が不十分でも収集しているのか教えてほしい。また福祉の方とどのように連携しているのか教えてほしい。またごみ出し支援を受けることが恥ずかしいという方もいるためこの点も気になっている。

→分別については、ヘルパーの方が仕分けを手伝い対応してもらっているが現状である。まごころ収集開始後、福祉部署との連携は試行錯誤しており、去年からケアマネの方の判断で柔軟にサービス利用対象世帯を認定できるように運用を変更した。現在は対象世帯が 200 件となっている。引き続きケアマネの方と連携しながら制度を改善していきたい。

○まごころ収集について対象を広げ妊婦も申請できるようになったとの説明だったが、母子手帳発行時点で案内などしているのか。

→特にそういうタイミングではやっていない。

○全員に直接案内するのが難しくとも、例えばマタニティコンシェルジェの方から伝えてもらうという方法もあり、そういうことをやっていかなければならないと思う。

→今後検討していきたい。

○改定後の施策体系（案）の内容については、各具体施策の達成状況を定量的に評価して、その評価をもとに各施策についてどのように取り組んでいくかを判断していく

のがよいのではと思う。

→現行計画を策定する際に、施策ごとに数値指標を設定するかという議論もあったが、シンプルなものにしようということで今の目標設定になった。そのため具体施策の進捗を定量的に評価するのは難しいところがある。今回の計画改定においても施策ごとに指標を設定するのは少し難しいと思うが、こういった施策に力点を置くかなどは検討したい。

○まちのえきについて。ひかりが丘自治会では分別ボックスを置いている。そこに出されたものをその場で持って帰られる方もいてリユースにもつながっている。また家じまいの際にごみ運び出しに困っている家庭があったとき、ボランティアの方が軽トラを出すという好事例があり、まちづくりにつながっている面があると思う。

(4) 今後のスケジュールについて

・事務局説明（資料7）

→学識経験者の2人に事前に確認いただいたうえで、計画素案を第2回懇話会の7日前程度には委員に送付したい。

(5) 次回日程について

・事務局説明（資料3）

→10月20日14時から 市役所大会議室で開催予定。

3) その他

4) 閉会